

3冊の本

岡部光明

明治学院大学国際学部教授

(前慶應義塾大学総合政策学部教授)

「最近の著作」--岡部光明著『日本企業と M&A-変貌する金融システムとその評価--』東洋経済新報社、2007年5月。

企業の合併と買収 (M&A) は、いま最も活発に議論されているテーマの一つである。本書ではこれを総合政策学の視点から取り上げ、実証的に分析するとともに、公共政策ならびに企業経営の課題を指摘した。日本企業をこのように網羅的に分析した書物はまだ他に例がないと思う。なお、本書の中核をなす統計分析は、著者の研究会に所属する SFC 学部学生によるものであり、その意味で本書は SFC での研究ならびに教育の両面にわたる成果を示している。

「おすすめの本」--新渡戸稲造著；矢内原忠雄訳『武士道』(ワイド版岩波文庫；35) 1991.6

本書は 100 年以上前に英語で出版され、日本語に翻訳された古典である。どの社会でも人と人あるいは個人と社会の関係を規定する行動基準がある。日本の場合、かつては武士道を構成していた様々な要素がそれに該当する。そこには、礼 (思いやり)、誠 (正直さと誠実さ) など普遍性の高い基準が多く含まれている。現代のわれわれは、果たしてどのような価値を意識し、また行動原則とする必要があるのか。これを考えるうえで本書は多くの示唆を含む。

「影響を受けた本」--鈴木淑夫著『金融政策の効果：銀行行動の理論と計測』東洋経済新報社、1966. 11。

本書は、米国の新しい金融理論を日本に適合させた理論モデルを提示し、それを統計的に検証した書物である。日本の金融メカニズムの理解に関する画期的な業績と評価された書物であるが、私にとってはその著者が日本銀行の若手研究者であった点が大きな驚きであった。このような仕事ができる日銀に魅力を感じて私は日銀に入行、その後 20 年以上にわたって著者 (鈴木氏) の指導を受けることができた。これは私の人生航路を決定した書物である。

(慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス SFC メディアセンター「企画展示」解説、二〇〇七年九月)